

あまり得意ではないという点である。県外・海外への情報発信もあまり得意ではない。さらには、色々な仕組みを作っても、マネージメント、マーケティングがあまり得意ではない。結果、高知県には本当に素晴らしい観光資源や産業資源がありながら、それがなかなか全国に知られていないという状況にある。高知県の産業振興も含め、これらの点が今後の課題である。

## (2) 市町村合併の遅れた高知県

高知県は、市町村合併が非常に遅れてしまった。市町村合併によって自治体運営を効率化させることは非常に重要なことではある。しかし、そのことが地域の自立、競争力を高めることに向かわなければ、合併の本来の意味がない。反面、合併しなかった、正確には合併できなかった市町村においては、合併にともなう作業で多大な時間をとられなかったことが幸いしてか、合併した市町村よりも一歩早く、そして着実に地域の自立に向けた取り組みが進んでいるように感じる。高知県には、まだまだ沢山の「村」が存在している。その中でも特に元気があるのは、柚子を使った飲料、ゆずドリンクなどで日本的にも有名になった「ゆずの村」こと、「馬路村」である。そして、高知県の西南部にある三原村においても、濁酒を核にして、地道に「村」をブランド化する取り組みが始まっている。今回ご紹介する、「土佐三原どぶろく」の村である。この三原村を、是非、「村」としてブランド化したいと考えている。

「村」という言葉には、どこか懐かしい響きがある。そこには、「故郷」「田舎」「共同体」というイメージがある。これから高知県において、「きらりと光る村」を核にして「日本一の田舎」を目指し、地域全体をブランド化していきたいと考えている。

## (3) 三原村の位置的条件

三原村は、高知県の西南部に位置する小さな山間の村である。足摺岬がある土佐清水市、愛媛県と県境を接する宿毛市、そして日本最後の清流「四万十川」で有名な四万十市に三方を囲まれている。高知市からは

車で約3時間、約150キロの距離にある。道路については、まだまだ十分ではないが、国道・高速道(須崎以西で現在工事が進んでいる)とも順次整備されつつある。時間距離にして、東京から5時間、「辺境の地」という環境が幸いして、災いしてか、国道も交通量が少ない関係で、150キロという距離もストレスなく運転できる。そして、高知県の西南部は、四国沖を流れる黒潮の影響もあり、海を望む景観が抜群に素晴らしい。海の青と、木々の緑が素晴らしく綺麗である。また、遠くから波がうち寄せる広い砂浜もあり、サーフィンを楽しむには最高の地域である。海の景色を眺めながら、ゆっくり、のんびり旅するには、高知県の西南地域は最高の場所である。中土佐町や黒潮町など、「ホエール(鯨)ウォッチング」できる場所も沢山ある。

三原村へは、公共交通手段としてJR土讃線、土佐くろしお鉄道中村・宿毛線がある。土佐くろしお鉄道中村・宿毛線の平田駅で下車し、そこからバスで少し山間に入れば三原村に到着する。約9.6キロの距離である。途中、中筋川ダムや溪谷が眼下に眺められ非常に綺麗である。バスの便が非常に少ない関係で凄まじい不便さがあるが、この不便さを逆に売り物にするのも一つかもしれない。最近はトレッキングも盛んであるので、片道約10キロの道のりは運動するにもちょうど距離ではある。しかし、濁酒を飲まなくてはならないので、やはり公共交通を見直す必要性はあると感じるが、人が来なくては何ともしがたいので、これから人が来る仕組みを作らなくてはならない。

## (4) のどかな田園風景と田舎の雰囲気

三原村は、山間部にあるとは言っても、高い山々を超えていくというイメージではない。少し山を登って、トンネルを抜ければ、そこはまさに「桃源郷」というイメージの村である。目の前には、素晴らしい田園風景が広がる。三原村にはこれといった観光資源はないかもしれないが、これら自然の景観や、色彩、のどかな田園風景など、田舎の雰囲気がまさに観光資源ではないかと思う。